資料９

日本ジオパーク再認定審査現地審査報告書

ジオパーク名: おおいた豊後大野ジオパーク
現地審査員: 宮原育子、廣瀬亘、山田雅仁

A.　基本情報

面積	**603.14km^2**
人口	**36,930** 人（**2017** 年 **10** 月 **31** 日現在）
日本ジオパーク認定年	**2013** 年
前回の審査日程および審査員名	**2013** 年 **8** 月 **26～28** 日 小泉武栄（審査員　**JGC** 委員）、大野希一（現地審査員　島原半島ジオパーク）、片山彰（審査補助員　阿蘇ジオパーク）
ウェブサイト（**URL** を記載）	**http://www.bungo-ohno.com/**
ソーシャルメディア（すべて列記）	**https://www.facebook.com/**おおいた豊後大野ジオパーク**-814803511877575/**

B.　提出書類一覧

・JGC に提出した書類

１．おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会　２０１７現況報告

２．おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会　再認定審査現況報告書添付書類

・審査期間中または審査後に直接審査員に提出した書類

１．ユネスコエコパーク地図

２．おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会　平成 29 年 10 月　おおいた豊後大野ジオパーク基本計画

C.　地域の地図

ジオパークから提供された地図をここに貼付してください。ジオパークの境界線、他に世界遺産やエコパーク、国立公園など指定・認定を受けたものがあれば、地図上に示してください。

図 1. おおいた豊後大野ジオパーク

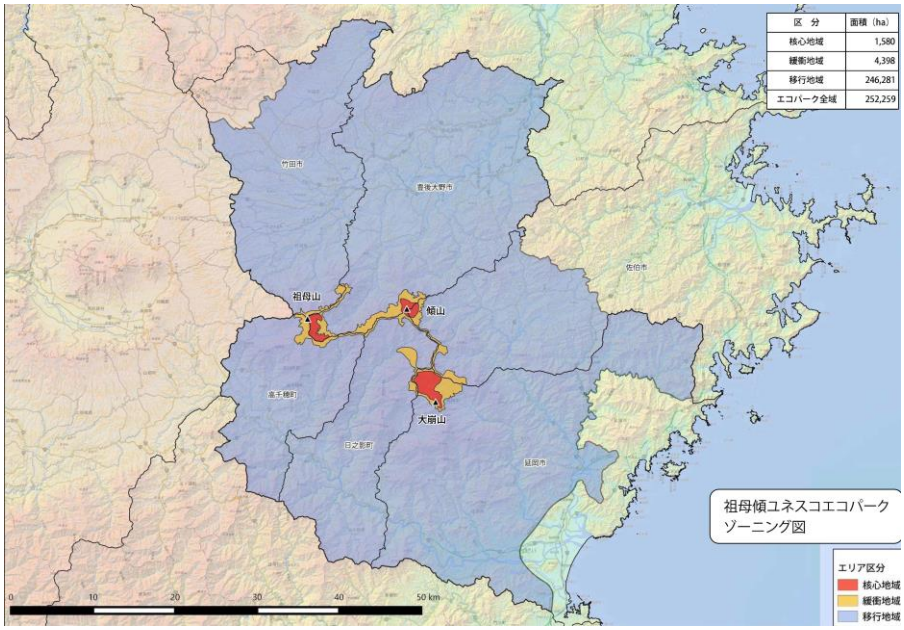


図 2. 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク

D.　前回の指摘事項に関する取組・改善点

前回の主な指摘事項

（1）抽象的すぎるテーマ

該当地域には「そしていま、ぼくらの時代～巨大火砕流から 9 万年。大地に祈り、いかされ～」というメインテーマ、そして「人々の祈り」「先人たちの知恵」「大地の恵み」というサブテーマが設けられているが、表現が抽象的すぎる。豊後大野地域を知らない人にも分かりやすい、ジオパーク全体を見渡せる、簡潔なテーマの設定が必要である。

（2）ジオパークとしての受け入れ態勢の整備

サイトの解説板やガイドブック等、ジオパークとして必要不可欠な観光客の受け入れ体制の整備計画の策定と実施が急務である。

（3）拠点施設

現時点での拠点施設として想定されている豊後大野市歴史民俗資料館の充実が望まれる。特に、拠点施設においてジオパークを専門に担当する研究者を採用し、ジオパークの質を維持できるような持続的な体制づくりが求められる。また、拠点施設は来訪者にとって場所が分かりにくく、アクセスしにくい。加えて、来訪者が気軽にアクセスできる「道の駅」を活用するなど、来訪者の目線に立った、明確な導線づくりを心掛けてほしい。

（4）ジオパークを活用した具体的な町おこし

当該地域にはシイタケやお米、そしてその郷土米を活用した地酒などの特産品があるにもかかわらず、それらとジオパークとの関わりがまだ希薄である。ジオパークの認定を地域住民に実感させ、かつ来訪客をもてなすためにも、地域の特産品とジオパークを関連付けた商品開発を推進してほしい。

（5）ジオパークガイドの養成

ガイド自身が説明しているサイトの見どころが、地域全体の地史の中でどう位置づけられているのかに関する説明に乏しい。地球科学に関する基礎知識や、地域の地史についての理解を進めてほしい。また、それを対人に向けて説明する際には、地域の歴史・文化・自然生態等に関する知識を関連させたストーリーとして、発信してほしい。

（6）安全管理

当該地域には自然のままの景観を楽しむことができるサイトが多数存在するが、一方で強い安全管理が求められる場所も多い。原尻の滝、緒方上井路には安全柵やガードレールがないため、土地勘のない来訪者を案内する際には、来訪者の安全管理を徹底する必要がある。

（7）防災教育

当該地域は豪雨に伴う河川の氾濫や土砂災害を度々経験しているが、その災害のリスクに対する情報発信が希薄であるように思われる。また、近隣には阿蘇、九重、由布岳などの活火山も存在し、火山災害のリスクがないとは言えない。自然は恵みだけでなく、時として災いをもたらすことを伝える啓発活動の強化が望まれる。

結論

（1）現時点では、新たなテーマの表現の提示には至っていない。認定後は、個々のジオサイトやガイド事業の整備などに集中してきたので、できれば、来年までにはビジョンを定めて、ガイドや教育関係者をはじめ地域で共有し、将来構成をしっかりもってほしい。

（２）ジオサイトの解説板は、道の駅を含め、主なサイトに設置してあり、概ねわかりやすく表現されている。解説板はジオパーク全体での位置関係を示したものやジオパーク自体の説明をしたものがあるとよい。ガイドブックについては、サイトごとに作成されて、それをファイルに閉じて使うように工夫されている。また、主におおいた豊後大野ジオパークを巡るツアー会社、「ツーリズム豊後大野　豊旅」（地域限定旅行業）が 2014 年に創業して、大分市内から多くの観光客を誘致している。

写真１　原尻の滝の解説板

（３）現在の拠点施設は歴史民俗資料館（旧：緒方町）であり、2017 年 10 月に地質専門員を採用した。2021 年 3 月までに市中心部に建設する新施設に，図書館・資料館とともにジオパークの拠点施設を移転する計画である。また、拠点施設への案内標識は、新施設の設置に併せて整備する予定である。一部の道の駅では、総合案内板が設置され、石橋の構造を体験できるミニ模型があるなど、ジオパーク内での導線整備が意識され始めている。

写真2 「道の駅みえ」における石橋の構造を体験できるミニ模型

（４）地域特産品に関わる地元関係者が、ジオパークを意識した商品開発・販売を手がけるようになってきた。認定ジオガイド 3 人を含むカフェレストランにて、地域の食材を使った食事やジオ弁当を提供するとともにジオパークの案内を行っている。また、地域の酒蔵 2 社が共同開発した清酒・焼酎「大地の物語」は、おおいた豊後大野ジオパークのジオパーク関連商品として販売されている。

（５）ジオパークガイドは、サイトごとの個別のストーリーについて、おおむね説明ができていた。おおいた豊後大野ジオパーク全体のストーリー、またそれとの関係性についてストーリーを洗練させてほしい。ジオガイド養成講座においても、地域全体のジオストーリーが語れるようにガイドとともに作り上げていくような方法を考えてほしい。

（６）ジオサイトの安全性を点検したリストを作成し、ジオガイドと共有している。安全策を施せるサイトについては改修を行っているが、景観上の配慮や指定文化財による規則から改修困難なサイトについては、ガイド中では、ジオガイドが注意喚起の看板等で対処している。看板による注意喚起も計画している。またジオガイドは日常的にジオサイトのコンディションの観察やごみ収集などを行い、ジオサイトに変化が生じた際には、事務局に迅速に連絡する体制をとっている。

（７）市役所職員あるいは市民対象に、熊本地震や地すべりに関する研修会等が行われた。一方で、過去に発生した自然災害についても、ジオパークとして展示やウェブサイトでの閲覧などを今後進めていただきたい。

E.　ユネスコ世界ジオパーク運営指針基準の検証

E.1　領域

E.1.1 地形地質遺産および保全

約 1 億年前の地層群を貫くマグマがつくった祖母山の美しい景観や、約 9 万年前の阿蘇火山の巨大噴火による膨大な噴出物と大野川が作り出した豊かな人々の暮らしの場を体感することができる。

特に重要な地形地質サイト：
・原尻の滝（市指定名勝）
　緒方川が阿蘇-4 火砕流の強溶結部を浸食して形成された、高さ約 20m、幅 120m に達する滝である。緒方川の水流が豊かで大分県下でも有数の瀑布であること、滝の上流側に市道があり川の中から滝をのぞき込むような疑似体験ができることから、豊後大野市における最も著名な観光地となっている。強溶結により形成された顕著な溶結ガラス（黒曜石）など溶結凝灰岩の形成過程や、トップリングや河川浸食により滝がしだいに後退していった過程など、豊後大野地域の地質や地形発達史を知ることの出来る貴重なサイトである。河川による河川法によって状況改変や開発行為が制限され、市の指定名勝であることから市文化財保護法により保護されている。市による定期的なパトロールや住民による清掃活動により景観や美観が保たれている一方、安全管理については看板による啓発やガイドによる声がけが主である。

滞迫（たいさこ）峡（河川法による保護）
奥岳川が阿蘇-4 火砕流堆積物を下刻することにより形成された峡谷である。峡谷の西岸には、阿蘇-4 火砕流により埋積されていた新第三紀火山岩類（祖母山火山岩類）が露出しやや緩やかな斜面となっており、垂直に切り立ち柱状節理が発達する東岸（阿蘇-4 火砕流で構成）と顕著なコントラストを成している。火砕流堆積物の中に残された樹木の印象化石、溶結凝灰岩と安山岩溶岩の岩相の違い、地質の違いによりどのような地形が形成されるかなどをわかりやすく観察することのできる貴重なサイトである。現在は河川法により開発に制限がかけられているが、今後、市指定名勝ないし天然記念物とすることが見当されている。

沈堕（ちんだ）の滝（国登録記念物）
　大野川に形成された滝である。雄滝（幅 100m、高さ 20m）、雌滝（幅 10m、高さ 18m）で構成される。基盤岩であり東に急傾する大野川層群犬飼層の堆積岩類を河川成の砂礫層および阿蘇-4 火砕流堆積物が覆っており、傾斜する地層境界の上位に位置する阿蘇-4 溶結凝灰岩は頻繁に崩壊を繰り返している。九州電力による浸食防止工においては、豊後国志に記された景観の維持に配慮して修景工事が行われた。文化財保護法に基づく国登録記念物として保護されている。

指摘事項　有・無

E.1.2 境界線

　おおいた豊後大野ジオパークの境界線は、豊後大野市の行政界に一致する（図 1 参照）。

指摘事項　有・無

E.1.3 可視性（ビジビリティ）

　大分空港では、搭乗前の保安検査場で使用するかごに、おおいた豊後大野ジオパークの宣伝があるほか、土産物店の向かいにあるスペースで、おおいた豊後大野ジオパーク、おおいた姫島ジオパークに関する特別展示がされている。また手荷物受取場においても、両ジオパークのパネルが設置されており、大分県のゲートウエイからジオパークの存在が可視化されている。
　また、幹線道路沿い隣接市との行政界付近には、5 か所に歓迎看板が設置されている。

ロゴを使用し、全てのサイトが掲載されている詳細な観光マップがある。ソーシャルメディア（Facebook）は、1か月に２，３回の割合で更新している。
歴史民俗資料館や道の駅等の拠点施設においては、JGN や日本のジオパークを紹介した「ジオパークコーナー」またはその他のツールはない。
多言語対応については、ウェブサイト、パンフレット（解説書、サイトファイル等）やチラシについては日本語のみである。一方、解説版は大部分が日本語と英語が併記されているが、総合案内は日本語のみである。

指摘事項　有・無
指摘事項：
おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会のウェブサイトでは、ジオパークを紹介する解説は、地質の専門用語が多くて、一般の方には理解しにくいところがある。そのため、専門用語には、簡単な説明が必要である。また、文化サイトに関する解説もある程度、背景を知っていなければ、理解することができないので、簡単な説明が必要である。また、ウェブサイトは定期的に更新する方がよいだろう。

E.1.4 施設・インフラ整備

現在のジオパークの拠点施設は歴史民俗資料館内にあり、来訪者への案内やジオパークのセミナーなどを行っている。2021 年 3 月までに市役所の隣接地に建設する新施設に，図書館・資料館とともにジオパークの拠点施設を移転する計画である。現在は、市役所内 2 階にもジオパーク関連の展示を行っており、来庁者が目にする機会を増やしている。豊後大野市内には、道の駅が 5 か所に設置されており、市外からの来訪者に便利な立地にある。一部の道の駅では、ジオパーク事務局の働きかけにより、駐車場に解説看板の設置と施設内にジオパーク関連の展示ブースが置かれている。道の駅来訪者にとっても、ジオパークを知る良い機会となるので、事務局サイドでは、今後も道の駅との連携を深めていく予定である。また、市外では大分空港（大分航空ターミナル株式会社）がジオパークの展示や宣伝などに積極的に取り組んでおり、市内外の機関との協力体制を築いてきている。

指摘事項　有・無
指摘事項：
ジオパークの中心となる拠点の他に，今後も市内の道の駅を活用して各サイトをつなぐための拠点施設の整備をさらに進めてほしい。この地域にはどんなものがあってどこに行けばそれがわかるのか、どこに行けばガイドの紹介をしてもらえるのか、おいしいものは、どこで食べられるのかに関する情報が弱いので、すでにあるものを活用しながら、ジオパークを楽しみ来た人たちが困らないで、目的地にスムーズにたどり着けるような来訪者の導線に配慮した案内を考えてほしい。

E.1.5 情報、教育、研究

（1）情報
各サイトに設置されているほとんどの解説看板では、サイト名、ロゴ、写真、簡単なジオストーリー、日本語と英語の表記などわかりやすく解説されている。
パンフレットでは、現地の写真、周辺の景観のイラスト、アクセス方法が記載されている。全体的にわかりやすく説明してあり、パンフレットを読めば、ジオストーリーを理解することができる。
リーフレットについては、おおいた豊後大野ジオパークの全サイトが写真とともに簡潔に紹介されている。

おおいた豊後大野ジオパーク解説書は、大地の成り立ちと人々の生活や歴史について、最低限の知識を得るための導入書であったが、学校や社会教育の現地学習として、もう一歩踏み込んだ解説書として改訂し、利用されている。写真を多く使い、視覚的にわかりやすいように工夫されている。

（２）教育

ジオジュニアリーダークラブは、自分の住んでいる地域の価値について知るには他の地域やジオパークを知ることが重要であるという認識のもとで行われている。対象者は市内の小学校 5 年生～中学校 2 年生で、全部で 4 回開催している。初回で顔合わせとジオパークとは何かを学び、2 回目でサイトなどの現地を見学し、3 回目で県外教育交流として他のジオパークのある小学生中学生と交流し、4 回目で講演を聞き、まとめ学習を行っている。このジオジュニアリーダークラブは、ジオパークを直接担当していない豊後大野市社会教育課が主催している。

（３）研究

地球科学に関する学術論文は、大分地質学会誌に３本ある。内容はそれぞれ、おおいた豊後大野ジオパークの紹介、化石標本目録、鉱物標本目録である。今後は、地質専門員を中心として、当地域における原著論文レベルの研究活動を進めてほしい。

他の遺産に関する学術論文は、石造文化財、季刊考古学には、墓や磨崖仏に関する研究、豊後大野市歴史民俗資料館年報、豊後大野市内遺跡発掘調査概要報告書には、古墳の調査記録があり、他の遺産では合計１２本の研究報告がある。

指摘事項　有・無

指摘事項：

滞迫峡の看板は、阿蘇溶結凝灰岩の説明が一部間違っているので、修正する必要がある。また、印象化石など専門用語の説明がない。

出会橋・轟橋の看板は、どちらが出会橋で、どちらが轟橋かわかりにくい。深い谷と岩石の存在は、９万年前の阿蘇山の巨大噴火が関係しているという説明の因果関係がわかりにくい。

「豊後大野」の英語表記が３通りあるので、統一する方がよい。

リーフレットの中に、モデルコースが５つ紹介されている。しかし、モデルコースの通りにサイトを巡ろうとすると、記載されている地図では、詳細な道路が表現されていないので、場合によっては、サイトにたどり着くことができない可能性があるだろう。

E.2　その他の遺産

E.2.1: 自然遺産

岩戸の景観（河川法）・・・阿蘇溶結凝灰岩のうち、阿蘇-3 溶結凝灰岩と阿蘇-4 溶結凝灰岩によって急峻な崖地形が形成されている。この凝灰岩の柱状節理の下には大野川層群犬飼層があり、約９千万年前の地層で形成された地形を約 9 万年前～12 万年前の火砕流が埋積し過程を観察できる貴重な景観である。消滅の危険性はない。河川法で保護されている。

指摘事項　有・無

E.2.2 文化遺産

犬飼港（市史跡）・・・明暦２年に岡藩の川港として、大野川河畔に整備された川港町である。犬飼港は、内陸部の岡藩が川を利用し物資を都市部に輸出したり参勤交代のために拠点

とした、重要な川港であった。犬飼町周辺は、大野川層群犬飼層の上部に阿蘇-4火砕流が堆積している。犬飼港跡では、犬飼層がほぼ垂直に立ち上がっており、砂岩・頁岩の互層が確認できる。岡藩主が出航したとされる藩港跡は、砂岩層が垂直に立ち上がり大きな壁面を形成している。商業用港跡では、砂岩・頁岩の互層を削って、更にその上に阿蘇-4溶結凝灰岩の板石を敷き詰め、利用しやすい石畳を形成している。消滅の危険性はない。河川法、市文化財保護条例で保護されている。

出会橋・轟橋（法的保護なし）・・・奥岳川は、阿蘇-4火砕流堆積物が下刻されて深い渓谷を形成している。この渓谷を人々が渡河するため 1924 年に出会橋が架設された。その後、1934 年に、営林署が傾山系から切り出した樹木を豊肥線鉄道牧口駅（現・豊後清川駅）に運搬するため、森林鉄道を敷設する石橋として轟橋を架設した。出会橋は一連のアーチ式石橋で、径間 29.3m は全国第２位の長さである。轟橋は二連のアーチ式石橋で、長い方の径間 32.1m は全国第１位の長さを誇る。阿蘇-4 溶結凝灰岩は、縦に亀裂が入っているため柱状態の石材として採取しやすい。また、横からの打撃を受けると容易に割ることができ、方形の石材を形成するのに適している。消滅の危険性はない。橋梁の法的保護措置はない。

虹澗（こうかん）橋（国重要文化財）・・・文政７年に臼杵藩城下町と在町である三重を結ぶために建設された。虹澗橋が架かる三重川は深い渓谷で、三重から野津を経由し臼杵城下へ年貢を運ぶのには大変な苦労があった。これを解消するため、三重・臼杵の豪商が出資し、４年近い歳月をかけて橋が完成した。虹澗橋がかかる三重川は、阿蘇-4溶結凝灰岩が下刻されて深い渓谷を成している。虹澗橋は、深い渓谷を渡河するためにアーチ式石橋を築いていく豊後大野石橋文化の嚆矢といえる。消滅の危険性はない。文化財保護法で保護されている。

指摘事項　有・無

E.2.3 無形遺産

豊後大野には、無形文化財は、国指定（神楽）１件、県指定（神楽）6 件、市指定（神楽、獅子舞、白熊、盆踊り、祭り）74 件、県選択（祭り、千本搗）2 件が存在している。

文化財保護法上の「無形民俗文化財」が多く存在する地域であり、特に神事芸能として残されてきた、神楽、獅子舞、白熊（はぐま）と呼ばれる御幸行列（神輿行列）に付随する形で残されている。特に神楽については、豊後大野市を中心とする旧大野郡、とりわけ幕藩体制下の旧岡藩エリアが、大野系岩戸神楽（大分県における神楽の一形態）の発祥地であることから、イベントなどで登場することも多い。

また、以上のような神事芸能とは別に、「千本搗」と呼ばれる土木芸能や護身用として取り入れられたという「棒術」も存在し、当該地域の歴史を物語る無形文化遺産として認識されている。特に「千本搗」は、水路普請の際に行われたという来歴から、地質地形との関連が深い芸能として認識されている。

祭りの中でも緒方三社祭りは、原尻の滝、緒方井路（灌漑用水路）を祀る意識が見られ、ジオサイトと文化遺産のつながりが見られる対象として貴重である。

2010 年には豊後大野市神楽会館がオープンし、定期的な神楽の有料公演を行い、上記のような郷土芸能の伝承と活用を支援する活動を、持続可能な形で行なっている。また、このような無形文化遺産は、人がいなくなれば、消滅してしまう可能性がある。そのため、豊後大野市歴史民俗資料館では、可能な限り、無形民俗文化財の映像記録を残し、人が戻った時にはその芸能が復活できるような取り組みも行っている。

指摘事項　有・無

E.2.4 気候変動および自然災害への関わり

（1）気候変動への取り組み状況
特になし

（2）自然災害への取り組み状況
2016 年 4 月 16 日発生した熊本地震、2017 年 5 月 16 日に豊後大野市朝地町綿田地区で発生した地すべりに関して、それぞれ協議会顧問、協議会アドバイザーが、いずれも市職員向けに研修会を実施した。市民向けとしては、年に一度開催されている豊後大野ジオパーク市民大会において、阿蘇火山博物館長を招へいして、熊本地震をテーマとして講演会が開催された。
2017 年 5 月 16 日に豊後大野市朝地町綿田地区で発生した地すべりでは、住民からの地割れ発生の通報と市による地割れ拡大の確認を経て、21 日に避難勧告の発令、23 日に警戒区域の設定を行い、いずれも継続中である。おおいた豊後大野ジオパークのアドバイザーである原口強准教授（大阪市立大学）は、ドローンを使用した綿田地区の地すべり調査を行っている。これらの情報は、豊後大野市のウェブサイトで情報発信されている。
火砕流の浸食による深い谷と狭い盆地からなる地形は豪雨による急激な増水を招きやすい。石橋の破損など大きな被害は、豪雨災害が今後も繰り返し発生する可能性があることを地元住民が意識するきっかけとなっている。

指摘事項　有・無
指摘事項：
おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会のウェブサイトや Facebook では、調査結果に関する情報発信を行っていない。
綿田地区は、サイトとして登録されてはいないが、地域住民の不安軽減や今後にむけた情報共有のためにも、日常の行政範囲では入手しにくい、研究者によって得られた成果や基礎知識を住民にもわかりやすい解説を付して、情報発信してほしい。
2016 年 4 月 16 日発生した熊本地震では、豊後大野市清川町で震度５強の揺れを観測した。奥岳川にかかる轟橋（出会橋・轟橋サイト）の基部の岩盤が崩落し、復旧工事が継続中である。また、2017 年 9 月 17 日に台風 18 号による大雨がもたらした河川の増水によって、大野川水系中津無礼川にかかる轟木橋の一部が崩壊した。
上記の例のように、豊後大野市域ではこの４年間に、河川の増水による水害、地震による被害、地すべりと自然災害が頻発してきた。しかし、これら自然災害に関する情報を記録に残して、来訪者が安心してサイトを見学できるように、情報発信してほしい。

E.3　管理運営

（1）組織
おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会の事務局員は、市役所商工観光課所属 6 名、歴史民俗資料館所属が 4 名の合計で 10 名が在籍している。事務局の中に、2017 年 10 月に採用した非常勤の地質専門員が 1 名いる。この地質専門員は、専任であるが、残りの 9 名は兼任である。また、歴史民俗資料館には、文化財を専門とするスタッフが含まれている。また、事務局の中に女性のスタッフは 1 名で、市役所のジオパーク推進室長として勤務している。
おおいた豊後大野推進協議会の年間の予算規模は約 1000 万円で、そのうち約半分が豊後大野市からの負担金、残りの約半分が大分県からの補助金となっている。

（2）運営体制
おおいた豊後大野ジオパークは、おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会が運営している。構成団体は、市、学校、ガイド団体、学術専門部会等を含む 20 団体からなる。通常年に 1 度、年度当初に総会が開催されて、予算、事業計画等が話し合われているのみである。
より具体的な企画などを話し合う部会などはなく、事務局が中心となって行っている。また、ガイド団体が中心となって、1 か月に 1 度の割合でジオ茶会が行われている。スキルアップのために、勉強会を行っている。会場は主に市役所で行われ、その際にガイドと事務局での情報交換なども行われている。

（3）保護
サイトの保護・保全活動は、事務局やガイド会が連携して見回りやごみ収集などの美化活動を積極的に行っている。費用の発生する保護対策は、公費によって行っている。

（4）インフラ
現在、事務局員の一部が在籍する拠点施設は緒方町の豊後大野市歴史民俗資料館だが、2021 年 3 月までに、市役所に隣接する新たな施設を建設する計画がある。新たな歴史民俗資料館の基本計画は策定中であるが、大野川流域の文化をメインにしていこうとしている。この資料館で、ジオパークや歴史の情報を入手し、その後現地を実際に見られる形にしようとしている。また、ジオガイドが常駐できる施設にしようとしている。
豊後大野市内に、道の駅が 5 駅あり、拠点施設の機能充実に努めていく予定である。さらに、朝倉文夫記念館、俚楽の里伝承館、豊後大野市神楽会館の 3 つを拠点施設に準じる施設として、情報発信として活用する予定である。

指摘事項　[有]・無
指摘事項：
財政に関する運営計画は、記載されていない。
ガイド団体からは、費用の発生する外部講師を招へいができないことを悩んでいた。費用の面で、ガイド団体と事務局が互いに協力していく方がいいだろう。また、ガイドや商工業関係者など地域住民がジオパーク活動に主体的に関わり、ジオパークの運営や意思決定に意見が反映されるようなやり方を、ジオパークとして検討していく必要がある。

E.4　重複（オーバーラッピング）

おおいた豊後大野ジオパークは、豊後大野市全域及び他の市町とともに、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの範囲に含まれている。また、豊後大野市の一部が、祖母傾国定公園に含まれている。
祖母・傾・大崩ユネスコエコパークを構成する自治体は、大分県佐伯市、竹田市、豊後大野市、宮崎県延岡市、高千穂町、日之影町である。総面積は、2,437km^2 で、核心地域が 16km^2、緩衝地域が 177km^2、移行地域が 2,243km^2 である。核心地域と緩衝地域は、祖母傾国定公園や祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域に指定されており、適切な保護・保全が図られている。また移行地域は、九州有数の林業地帯であり、農林業を生業として発展してきた歴史を持ち、現在も、気候条件や地形の複雑さを活かし、森林資源の幅広い利活用や様々な農産物生産により、二次的自然環境の持続的な利用が継続されている。
エコパークの核心地域と緩衝地域で予定している事業は、祖母山の山小屋のトイレの改修である。移行地域については、ジオパークでやっていく予定である。また、移行地域内のガイドは、ジオパークでやっていく。一方核心地域と緩衝地域のガイドは、レベルの高い登山技術が必要なこともあって山岳ガイドがやっている。

指摘事項　有・[無]

E.5　教育活動

（1）学校教育

豊後大野市内の小学校では、ふるさと学習として、総合的な時間や国語、社会、理科の授業において、１、２年で地区探検、３年で菅尾の文化財と生き物調べ、４年で地区の文化財とジオパーク調べ、５年で地区の文化財調べ、６年で豊後大野市の文化財調べ、ジオ学習のまとめと外部への発信を行っている。

見学した授業では、虹澗橋という石橋に関する観光客向けのパンフレット作成の見直しを行っていた。実際に、ガイドを行うためには、石橋に使われている岩石の特徴、見てわかる絵の描写、わかりやすい文章、石橋を建設した社会的背景など総合的な知識が必要となる。内容としては、６年生で学習する範囲をはるかに超えているが、子どもたちは積極的に取り組んでいるように見えた。このような体験学習を取り入れたことによって、子供たちの自己肯定感も上昇した。そのため、小規模学校にも関わらず、校区外からも児童がやってくるようになった。

この学校の取り組みは、少人数だからこそできる内容ではあるが、全国のジオパークにとっても先進事例として紹介することができるレベルである。

また、市内の中学校では、『わたしのふるさとジオパーク豊後大野～「守って」「学んで」「楽しんで」～』をテーマとして学習している。見学した授業では、「わたしが考えるジオの楽しみ方」を新聞発表することを目標にしており、様々な方にインタビューをしている。今回３人の審査員もインタビューの対象となった。事前に審査員の特徴が生徒に伝えられ、下調べをしてから、インタビューを受けた。初めて会う人に、ジオパークに関する専門的な話をするということで、会話能力を身につけることができたと考えられる。

（2）ジオガイド養成

ジオガイド養成講座は、前期（5～8 月）に座学と現地見学を含めて 10 回開催し、後期（冬季間）に、10 回開催している。前期には、ジオパークの理念について、その後比較的重要なサイトごとに、地形・地質などの講義を行っている。一方、後期には、豊後大野の歴史、農業、植物や話し方などの講義を行っている。

E.6　ジオツーリズム

豊後大野市は、もともと観光地ではなかった。しかし、4 年前の 2013 年にジオパーク新規認定されたことをきっかけとして、地域住民は、阿蘇-4溶結凝灰岩を土台とした見どころがあることに気がついた。そして、ガイド件数もこの 4 年間で年々増加してきた。

2014 年 5 月の豊後大野を中心としたジオツーリズムを専門とする「ツーリズム豊後大野豊旅」という会社が設立された。地域限定旅行業として、受注型企画旅行、募集型企画旅行、手配旅行を扱っている。この旅行会社のツアーでは、ジオガイドがジオサイトを案内するので、ジオガイドの出番が多く、また一般の観光客に対して興味が持てるようなガイドのスキルを磨く場にもなっている。最も人気のあるプランは、ガイドといっしょに歩くジオウォークである。滝・石橋・磨崖仏・地元の食が含まれているツアー、祖母傾国定公園サイトで大自然とふれあうツアーなどもある。ジオウォーク、ジオチャリ、石橋、磨崖仏に関するジオツアーは、毎日募集している。

農業が盛んな豊後大野市には、地元の食材だけを使った食事の提供も行うレストランがあり、旅行会社は、地域の魅力ある食をツアーの企画に入れて、観光客にも喜ばれている。

このように、おおいた豊後大野では、本格的なジオツーリズムの取り組みが始まっている。

E.7　持続可能な開発

E.7.1 持続可能な開発に関する方針

持続可能な開発に関する取り組みは、特に行われていない。

指摘事項　有・無

E.7.2 パートナーシップ

ジオパークによって構築されたパートナーシップ（提携・連携）を確認し、（ホテルのレストラン、ガイドなどの地元のステークホルダーと）ジオパークが定めた基準による正式なパートナーシップ協定があるかどうかを確認してください。ジオパークには、地域の生産品、正式なパートナーシップ協定、基準、プロモーション活動などのためのブランド化戦略がありますか？　ジオパークが、そういったパートナーシップ（フェスティバル、フェア、ウェブサイトやリーフレットによるプロモーションなど）を推進しているか確認してください。この戦略の全体的な質と可視性（使用される基準、パートナーの数など）を評価してください。

おおいた豊後大野ジオパークの独自で新たなパートナーシップ制度として、ジオパーク活動の情報発信「ジオパークフレンドショップ」の募集を 2017 年から開始した。道の駅、飲食店、小売店、サービス店などは、地域産品の取り扱いや観光情報の発信などを積極的に行い、協定を結んだ店舗に対して推進協議会は、パンフレットや広報による地域特産品の PR を取り扱うというものである。活動は端緒についたばかりであり、他のジオパークでの事例を地域に紹介するとともに、市や県などとの連携も模索しつつ地域産品の紹介などプロモーション活動を手がけていくとよいだろう。

指摘事項　有・無

E.7.3 地元コミュニティや先住民族の全面的かつ効果的な参加

・意思決定における地元コミュニティや先住民族の役割強化
・有形（食べ物、水、燃料、シェルター）および無形（意義のある場所や精神的な場所）のサイトや資源への継続的なアクセス・利用の保障
・地元コミュニティや先住民族の言語、知識システム、慣習、価値、世界観といった独自文化の尊重や継承支援

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会の構成団体は、市役所、教育委員会、学校、ガイドの会などが含まれている。総会は、通常年に１度開催されており、予算や事業計画について話し合っている。また、ガイドの会主催のジオ茶会が月に一度開催され、ガイドの会のメンバーや事務局のメンバーが集まっている。

現在、サイトは、ボランティア団体の方々により清掃活動が行われている。行き届かないサイトは、ガイド会が清掃活動に取り組んでいる。

指摘事項　有・無

指摘事項：

利害関係者を含めて、具体的に企画等を考える部会などは、存在せず、事務局主導で企画が行われているようである。地域でやる気のある方が、入れるような仕組み作りが必要であろう。

E.8　ネットワーク活動

日本ジオパークネットワークの全国大会、全国研修会では、地元での取り組み状況をポスター発表や口頭発表を行って、情報共有を行ってきた。また、他のジオパークと協力して、サイエンスアゴラでの岩石標本づくりなど、参加者に人気のあるワークショップを行っている。さらに九州ジオパーク連絡会の中でも交流を行っている。

また、2013 年から毎年、おおいた姫島ジオパークの姫島小学校とおおいた豊後大野ジオパークの小学校とジオパーク教育交流事業を行っている。県内および九州圏域でのジオパークブロック活動には県が主体的に関わり、ジオパーク同士をつなげることで相乗効果が生まれ始めている。

指摘事項　有・無

E.9　地質鉱物資源の販売

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会では、地質鉱物資源の取引に関与していない。

指摘事項　有・無

E.10 防災・安全対策、防災教育、災害対応

2013 年から、サイトの安全性を点検したリストを作成し、ガイドと共有している。安全策を施せるサイトについては改修を行っているが、景観上の配慮や指定文化財による規則から改修困難なサイトについては、ガイドの現地研修で危険回避の処置を講じるように周知している。

例えば、原尻の滝では、安全柵を設置すると、河川の流量が増加した場合に、ゴミが引っかかるという問題がある。そのためゴミの撤去に大きな予算を費やすことになってしまう。そこで、ソフト対策として、ガイド中はガイドによる注意喚起が行われている。看板による注意喚起も計画している。

指摘事項　有・無

F.　総括

この 4 年間で、新規認定時に課題となった項目の取組・改善状況は、受け入れ態勢の整備、地域産品の活用については改善された。拠点施設については移転計画があり、安全管理についてはソフト対策を計画している。テーマの修正については、未解決である。防災教育、ジオガイドの養成は、今後も引き続き改善に努めてほしい。

かつて、豊後大野の住民は、自分たちの住んでいるところは何もないと思っていたが、ジオパーク活動を通して、豊後大野は見どころがたくさんあることに気づいてきた。

この 4 年間で学校教育を主体として、ジオパーク活動を推進していることがよく理解できた。学校の先生方が、自主的にサイトに見学へ行って学んでいることがわかった。その熱意が子供たちにも伝わり、子供たちもふるさとの良さを知り、伝えようと学習している姿を見た。このような活動は、全国のジオパークにも紹介すべきレベルの内容である。

豊後大野の市民が旅行会社を起業してジオツアーを販売し、認定ジオガイドが案内をするという役割分担もできている。ジオツアーについては、日帰りだけではなく宿泊を伴ったものも増やすともっと素晴らしくなるだろう。

ガイド会のメンバーは、情熱的で地域の盛り上がりが顕著である。ガイドの活動は今後も活発になってほしい。ガイドや地域の方によるサイトの整備や保全がきちっと行われている。

サイトの案内看板は解説が簡潔で一般の人にもわかりやすくなっている。

おおいた豊後大野ジオパークでの活動は、これまでは、地域の巻き込みやすいところから巻き込んで進めてきた。今後は、20～60 才のまだ浸透していない年齢層やジオパークに批判的な考えを持っている方も含んで、広く地域住民を巻き込んで、活動を進めてほしい。

ジオパーク活動は、まだやり残したところがあるので、そこを一生懸命やっていくと今後の４年間も伸びる可能性が高いと感じられた。

また、おおいた豊後おおのジオパークは、大分県や大分市の企業や空港などの諸機関との関係が良好であり、ジオパークの継続的な運営については様々な支援と理解を得られている。学術アドバイザーも学術的な情報の提供や調査なども行っており、今後もジオパークの持続的運営が見込まれると考えられた。

G.　指摘事項

・提案：グリーンカード／イエローカード／レッドカード

・主な指摘事項

（１）理念の共有について

何のためにジオパークをやっているかが市民の方々にあまり共有されていない。地域にあるもの全てを動員して将来どんな地域になっていくか、土地のデメリットを把握しながら一つになって進んでいこうという理念が共有されていくと、これまで入ってこなかった人たちがジオパークに入ってくるきっかけになってくる。何のためにやっているのだろうということを共有していくことで、地域の盛り上がりを高めることもできるし、色々な人が関与していくことができる。豊後大野全体で共有していくことを考えていただけると、もっと素晴らしい地域になるだろう。

（２）将来像について

次の４年間のジオパークをどのようにしていくかがイメージできない。個々の活動はしてはいるが、豊後大野市にとってこの活動が将来どういう形で何を目指すかが見えてこない。テーマに関して、前回の新規申請時にテーマが曖昧なところもあったので、今年か来年までにはビジョンを定めて、ガイドや教育関係のみなさんで共有し、将来構成をしっかりもっていけば、スムーズに回っていくだろう。

（３）組織体制について

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会は、組織の中に、道の駅や、商工関係が入っておらず、市全体でジオパークを盛り上げる形になっていない。また、通常年に一度総会が開催されるだけで、予算や事業計画について形だけでしか話し合っていないようだ。今後も、持続可能な組織としていくためには、部会などを作って、利害関係者が集まって具体的な企画を作っていく仕組みが必要である。また、ガイドの方は熱意があり、積極的であるが、事務局との連携が少し弱いと感じられた。ガイドの会と事務局が連携を強めて、積極的にジオパーク活動をすすめてほしい。

（４）総合的な案内について

ジオパークを見に来たお客様に対して、総合的に案内する拠点施設の整備がまだされていない。どこに行けばガイドの紹介をしてもらえるのか、おいしいものが食べられるのかなど、道の駅などすでに存在しているものなどの活用をさらにすすめ、ジオパークを楽しみに来た

人たちが困らないように、自分の目的にスムーズにたどり着けるような案内を心掛けてほしい。

（５）研究活動とその成果の利用について

この４年間で新しい研究活動が見られない。研究とは地域にあるものに新しい価値を付け加えるものでもある。なぜそれが重要でそれに価値があるのかジオパークをとりまく人々に客観的に説明するために、研究によって価値づけを保証する必要がある。専門員やガイド、ジオパークの方々と連携して研究活動を新たに展開していき、その研究成果を使いやすいようにわりやすい形で情報提供できる取り組みも同時に進めていってほしい。

（６）自然災害の情報について

防災に関して、熊本地震や地すべり、水害などに学術関係者と連携して素早く対応し、情報もどんどん整理され公開されていたのは素晴らしい。しかし、この地域で昔どんな災害があったのかを知るのは、今後もこの地域で安全に暮らしていくために必要不可欠である。歴史に関しても非常に優れた記録がたくさん残っているので、それを読み解きながら過去に何が起こったか整理し、地域の人たちに広く共有して、この地域で暮らしていくためには普段何をすればいいかを考えるきかっけにしてほしい。

（７）他地域との交流

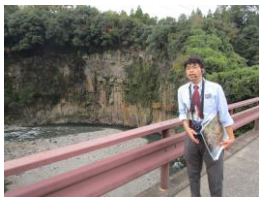
もっと外部の人と交流をもってほしい。ガイドの方にも旅費を補助して大会に行けるようにしたり、他のジオパークの方々に、ガイドを紹介したりしていくと、そういう方々が豊後大野の顔になっていくと思う。ネットワークを使ってその中に地域の人を盛り込んでいってほしい。

H.　行程表

現地審査視察内容・場所	主な対応者	気づいたこと／コメント
1 日目 (2017 年 11 月 1 日)		
大分空港 	川島太郎（大分空港ターミナル株式会社）	大分空港は、ジオパーク活動に協力的であることがわかった。
大分県ヒアリング 	山﨑吉明、大石真義、恒賀健太郎、飯田聖子（大分県生活環境部自然保護推進室）、豊田徹士、毛利篤史（事務局）、桂雄三（顧問）竹村惠二（顧問）、原口強（アドバイザー）	大分県は、学術研究の支援、再認定に向けた基盤整備・事業の企画、人的支援、豊後大野市やおおいた豊後大野ジオパーク推進協議会への財政支援、継続的な情報発信などを行ってきた。 ジオパーク活動を推進していくにあたって、観光ではなく、教育によって地元のジオパークに対する意識の向上によって足元を固めていくところから始めた。

2 日目 (2017 年 11 月 2 日)		
ジオパーク学習の見学1 豊後大野市立菅尾小学校 	淵野恭子(校長)、川野文敏(市長)、石掛忠男(副市長)、下田博(教育長)、竹村惠二(顧問)、桂雄三(顧問)、原口強(アドバイザー)、神田聖弘(課長)、首藤宣代(6年生担任)、6 年生児童 4 名	学校の正面玄関には、7 月にみんなで渡った轟木橋が台風 1718 号(9 月 17 日)の大雨による影響で、橋の一部が破壊されたという内容を写真付きで紹介している。 ジオパーク学習による体験活動を通して、自己肯定感の高い子供が育っている。
ジオパーク学習の見学2 豊後大野市立犬飼中学校 	廣末伊智郎(校長)、萩原正之(教頭)、川野文敏(市長)、石掛忠男(副市長)、下田博(教育長)、中城美加(学校教育課指導主事)、竹村惠二(顧問)、桂雄三(顧問)、原口強(アドバイザー)、神田聖弘(課長)、古賀真由美(3 年生担任)、3年生生徒 29 名	ジオ郷土学において、ジオの種をまき、故郷を知り、故郷から学ぶという視点で教育している。今回はジオパーク学習で得たことを、市長ミーティングで、生徒たちが考えたことをまちづくり施策に対する意見交換を行う予定である。
綿田地すべり災害地 	城井(市役所総務課長補佐)	2017 年 5 月 16 日に地すべりが確認された。地下水が影響している。この地区ではくり返し地すべりが発生していた。
教育関係者との意見交換会及び市長・事務局との意見交換会 	川野文敏(市長)、石掛忠男(副市長)、下田博(教育長)、神田聖弘(課長)、安藤久美子、毛利篤史、神志那庸一、山田哲平、高野弘之、安部一真、大野幸則、豊田徹士、吉岡敏和(事務局)、竹村惠二(顧問)、桂雄三(顧問)、山崎吉明(県室長)、飯田聖子(県)、西照之(緒方中校長)、高山浩昭(緒方小校長)校長 2 名は教育関係者のみに出席、望月晃(豊肥振興局局長)、吉住友和(豊肥振興局)、浅川忠彦(ガイドの会)	町ごとにふるさと学習部会があり、その中で小学校と中学校が連携した系統的なジオ学習のカリキュラムが作られていて、年々改善されている。 教員も子どもたちと一緒に学びながら、体験活動を通してジオが好きになっていった。 市の職員研修にジオ講座があり、大変希望が多い。ジオサイトをケーブルテレビで見てもっと知りたいという欲求が要因となっている。 郷土愛をはぐくむために、ジオパークが有効で、活用されている。豊後大野が好きになり、将来この地域に住みたいと思ってもらい、そこに仕事があれば定住していくという持続可能なサイクルを作っていきたい。

3 日目 (2017 年 11 月 3 日)		
菅尾磨崖仏 	高野京子（ガイドの会）	普段の清掃活動は、近所の方がほぼ毎日に見にきている。荒天後にはガイドが様子を見て報告してくれる体制をとなっている。
道の駅みえ（江戸内の景）	吉岡敏和（専門員）	
虹澗橋サイト 	宮崎勝一（ガイドの会）	ツーリズム豊後大野豊旅のバスツアー「石橋ものがたり」に同行し、ガイドの話を聞いた。
轟木橋 	衛藤ツネ子（ガイドの会）	轟木橋・・・ツーリズム豊後大野豊旅のバスツアー「石橋ものがたり」に同行し、ガイドの話を聞いた。
昼食（ベジカフェ・ミズ）		ほぼ豊後大野で、採れた食材だけを使った料理を食べた。
市歴史民俗資料館 	吉岡敏和（専門員）、大野幸則（事務局）	市歴史民俗資料館は、現時点では、市街地から離れたわかりにくい場所に位置している。
原尻の滝サイト 	高野京子（ガイドの会）	滝上部の水が落ちる先端部まで容易に歩いて行くことができるため、危険である。
滞迫峡サイト 	高野弘之（事務局）	

出会橋・轟橋サイト 	大野幸則（事務局）	
沈堕の滝サイト 	伊井光正（ガイドの会会長）	
岩戸の景観サイト 	吉岡敏和（専門員）	現地審査期間中の 11 月 1～2 日にかけて、このサイトの崖の一部が崩落し、きれいな露頭が見えるようになった。
4 日目 (2017 年 11 月 4 日)		
審査員とガイド等との意見交換会 	伊井光正、吉岡敏和、後藤宕子、衛藤ツネ子、森誠一、森迫喜代美、和田猛、本田章博、吉野玲子、日向千草、宮崎勝一、毛利篤史、高野京子、浅川忠彦、阿南貴詞（ガイド会）	郷土を愛するガイドの中には、この地域の農業を支えた井路や、地質・文化などすばらしい宝物があるこの地で生活していることを次世代に伝えたいという熱い思いを持っている。
事務局に対する追加の質問事項	神田聖弘、安藤久美子、毛利篤史、神志那庸一、山田哲平、高野弘之、安部一真、大野幸則、豊田徹士、吉岡敏和（事務局）	
講評 	川野文敏（市長）、石掛忠男（副市長）、佐藤辰己（議長）、桂雄三（顧問）、大石真義、飯田聖子（県自然保護推進室）、望月晃（豊肥振興局長）、吉住友和（豊肥振興局）、山田忠司（学校教育課長）、神田聖弘（事務局長）、安藤久美子（事務局次長）、高野弘之、豊田徹士、大野幸則、安部一真、毛利篤史、神志那庸一、山田哲平、吉岡敏和（事務局）、伊井光正、衛藤ツネ子、本田章博、日向千草、宮崎勝一、	

	高野京子、浅川忠彦、吉野玲子、阿南貴詞、森誠一（ガイド会）	